

新庁舎整備を契機としたワークスタイル改革



部・課長席を含めたグループデスク

ユニバーサルレイアウトを採用し、組織変更の人数増減や将来変化にも柔軟に対応可能。個人ワゴンを廃止し、組織文書専用のワゴンを島の両端に配置し共用。

令和6年7月に市制100周年の節目を迎える川崎市、その本庁舎が新しく整備され、令和5年11月より本格稼働しています。新本庁舎は、主に行政機能・議会機能を有する高層棟、旧本庁舎を復元した復元棟、開放的なアトリウム、第2庁舎跡地の広場（整備中）で構成され、「まちの活気をつなげ、新しい交流が生まれる都市型防災庁舎」として、川崎の新たなシンボルとなっています。

新本庁舎整備を契機としたワークスタイル変革の実現に向け「ペーパーレスの推進」「テレワークの推進」「オフィス改革の推進」の方向性を掲げ、具体的に取り組むとともに、それらを加速させるために新本庁舎の執務環境を整備しました。



アトリウム 新本庁舎のエントランス空間としてだけでなく、市民・行政などの様々な主体が集い、交流する「にぎわいの核」となる空間として計画。高層棟と復元棟を立体的に連結し、各機能を効果的に結びつける。



研修・大会議室（ホール） 前面に大型モニターを配置し、各種研修やイベントに活用できるスペース。可動式テーブルや軽量椅子を採用し、フレキシブルな運用が可能。

職員が働く執務スペースは、見通しの良いオープンフロアとなっており、部・課長席を含めたユニバーサルレイアウト及びグループアドレスを導入しました。また、執務エリア内の各所にファミレススペース・ソロワークスペースなどの各種コミュニケーションスペースを配置することにより、部門の垣根を超えた交流を促します。複合機や文房具などを集約したマグネットスペースのほか、窓口カウンター、会議室等のスペースを共有化することで空間の効率利用にも配慮しています。加えて、庁内無線LAN、軽量型パソコン・外部モニターの導入により個人席のワゴンを廃止し、ペーパーレス化を徹底するとともに、庁内内線電話のスマートフォン化など、自席以外でも業務ができる環境を整え、フリーアドレス（グループアドレス）を原則化しました。これにより、仕事に適した場所を選んで働くABW(Activity Based Working)が可能となり、テレワークも含め、効率的な働き方を実践することにより、将来にわたりよりよい市民サービスを安定的に提供することに繋がっていきます。

令和 6 年 3 月現在

プロジェクトの詳細

開 庁 : 令和5年10月10日
人 口 : 約1,545,000人
対象人員 : 約2,900人
延べ床面積 : 62,356.13㎡
建物概要 : 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート、
鉄筋コンクリート造、免震構造
地下2階・地上25階＋免震層
委託業務 : 川崎市役所本庁舎等移転
支援業務・川崎市本庁舎管理
計画等策定支援業務



オカムラHPでも
ご覧いただけます



窓口カウンター

来庁者の多いフロアには、相談業務に適したハイ・ローカウンターを整備。来庁者のプライバシーに配慮したセグメントパネル、執務席の情報保護のためデスクサイドにモバイルロッカーを配置。



基準階執務フロア(窓口なし)

来庁者はフロア受付にある電話で担当者呼び出す運用方法。相談内容により、職員がセキュリティーゲート内のコミュニケーションエリア誘導し、相談や打ち合わせ等に対応。



個人ロッカー

執務室内に配置した、モバイルバックや個人の荷物を収納するロッカー。配布物の投函口やPCやスマートフォンなどを充電できるコンセント付き。



コミュニケーションエリア

モニターを配置したファミレスブースや、人数の増減などに合わせてフレキシブルに移動が可能なテーブル席を配置。



ソロワークスペース

緩やかに周囲の視線を遮り、吸音効果のあるパネルを採用した個別ブース。集中業務やオンラインミーティングなどに最適。



ファミレスブース

背面パネルを配置することで、籠り感のあるミーティングスペースを構築。ソファ下には非常時用の備品などを収納し、スペースを有効活用。



上下昇降テーブル

打ち合わせ内容により、立ち姿勢でのクイックミーティングなどポジションの変更が可能。会議室に移動することなく、相談や短時間での打ち合わせに最適。



マグネットスペース

共通利用の文具や機器類をフロアごとに集約配置することで、部門間を超えた交流を誘発。物品管理等をワークステーション(*次写真)の障害者スタッフが集中処理。



総務事務センター ワークステーション担当

マグネットスペースへの消耗品補充等の物品関連業務、庁内便配達業務、古紙回収業務、紙文書のスキャン業務等を担当。障害者雇用に適した業務の集約化を推進。



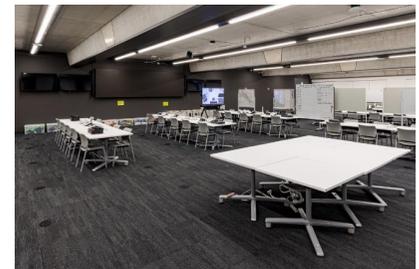
リフレッシュコーナー

昼食や休憩時の利用だけでなく、昼食時間帯以外の時間は打ち合わせスペースとしても活用。



災害対策本部長

前面モニターやタブレットなどICT環境を整備し、迅速な情報共有と意思決定に繋げる。



災害対策本部事務局

対策班毎の人数編成・業務内容に柔軟に対応できるよう、可動式テーブルと軽量スタッキンググチェアを配置。